

## 「少し～」を表す中国語に関する相対的考察 —初級段階での教育的視座から—

藤田 益子

### 序

中国語教育において初級段階で導入される「少し～」を表す表現に“一点儿”と“有点儿”の2つがあるが、文字面も意味も似て非なる語であることから、一部の教科書では新出単語の欄とは別に両者を対照・解説する項目も設けている。さりながら、“一点儿”と“有点儿”は文中に置かれる位置が異なることや、使い分けの特徴的な用例を挙げておくことで、教科書の例文や解説を読んだ段階ではあまり矛盾を感じたり、混乱したりする様子は見られない。だが、日常の様々な文章表現上で頻繁に用いられる“一点儿”と“有点儿”について、いざ実地の中国語会話や作文で自ら使おうとすると戸惑ったり誤って使ったりするケースが散見される。文中における文法的な位置取りについては、複雑さはないものの、実際の運用に際してはいま一つ明確な区別が仕切れない、一見分かっているようで使う段になるとどちらを使うべきか迷ってしまう、その理由と問題解決の糸口について、初級レベルで学ぶ教材の現況を明らかにしつつ、中国語の「少し」を表す語彙に対して共通点と相違点に基づき、相対的な考察を試みる。

### 1 教材

ここでいう教材とは、大学等における初級レベルの中国語の講義において、一般的な教材として最も多く使用される教科書、基礎文法書、辞典類を指す。以下、種類別にその具体的な内容を確認する。

#### 1.1 教科書の解説<sup>1)</sup>

まず、初級の段階で多くの学習者がどのように教科書から学んでいるのかを検証するため、採用数が多い<sup>2)</sup>、または多くの教科書の執筆経験がある中国語学の専門家によるポピュラーな初級中国語テキストのうちから、“有点儿”<sup>3)</sup>と“一点儿”を語項目として扱っており、尚且つ対比のための解説に一定のページ数を割いているものを中心に例を挙げる。<sup>4)</sup>

##### 1.1.1 教科書(A)：『いぶこみ交差点』

＜対照項目＞<sup>5)</sup> (p.123)

「少し」「ちょっと」

“有点儿” → 好ましくないことに

“一点儿” → 比べてみて

<対照解説> (pp.123-124)

“有点儿”は形容詞などの前に置き、不本意なことに使われることが多い。

今天有点儿不舒服。

这个菜有点儿辣。

“一点儿”は形容詞などの後に置き、比較してその差が小さいことを表す。

今天比昨天暖和一点儿。

1.1.2 教科書(B)：『語法ルール66』

<対照解説> (pp.123-124)

「少し」の諸相

① “有点儿热” “东西 有点儿贵”

“有点儿”(いささか)全体で副詞、好ましくないことに

② “大一点儿” “高一点儿”

比べてみて客観的に「少シ大キイ」という時、ルール53例文参照<sup>6)</sup>

③ “买 点儿 东西” “有 点儿 钱”

「少シノ金」と名詞を修飾する時

“快一点儿”(少シハヤイ) “慢一点儿”(少シオソイ) “早一点儿”(少シ時間ガ早イ) “晚一点儿”(少シ時間ガオソイ)などは連用修飾語として命令文によく用いられる。<現状ヨリモハヤク/オソク>ということで、この時しばしば“一”が省略される。

快点儿走！ 慢点儿走！

早点儿来！ 晚点儿去！

1.1.3 教科書(C)：『書く中国語』

<対照解説> (p.90)

「ちょっと～だ」という時、それが好ましくないことなら：

有点儿大 ちょっと大き(すぎる)のように“有点儿”を形容詞の前につけます。

それと似た表現で、大一点儿 やや大きめだ ということもありますが、それは他と比較して「より～だ」と中性的に言っているニュアンスがあります。また、この表現は「ちょっと大きくしてください」という命令文としてもよく使われます。

1.1.4 教科書(D)：『チャイニーズ・プライマー』

<単独解説：“有点儿”> (p.135)

“有点儿” + 形容詞

程度副詞 “有点儿”(←“有”+“一点儿”)は、普通あまり好ましくない状態が少し(“一点儿”)ある(“有”)ことを表します。

我觉得有点儿冷。少し寒気がします。

我心理有点儿紧张。いささかあがっています。

最近天气有点儿不太好。近頃天気がちょっとすぐれない。

“你是不是后悔了？”～“有点儿。”「後悔してないか？」「少しはね。」

<単独解説：“一点儿” (1)> (p.194)

形容詞の命令表現：“A一点儿”

人間が意志的にコントロールできる状態を表す形容詞の場合、“一点儿”を後置すると命令表現として使うことができます。話ことばではよく“一”が落ちます。(例) 紧 ⇒紧一点儿：“请站得紧一点儿，再紧点儿！”

1) 大 ⇒大一点儿：“大点儿声！（大声点儿！）”

2) 大胆 ⇒大胆一点儿：“你得大胆一点儿！”

3) 便宜 ⇒便宜一点儿：“真贵！便宜点儿吧！”

<単独解説：“一点儿” (2)> (p.280)

強調否定：“一点儿+也/都+否定述語”

[疑問詞+“也/都+否定述語”]という文型で、「何も/どこも/誰も…ない」という全面的な否定表現を造りました。

ここで未定を表す疑問詞に代えて、最小数・極少量を表す“一个”“一点儿”などを用いると「一つも/少しも…ない」という否定を強調した表現ができあがります。

何も食べたくない：什么也不想吃～ 什么都不想吃～

少しも食べたくない：一点儿也不想吃～ 一点儿都不想吃～

(例)他一点儿也不听我的话。彼は私の言うことをちっとも聞かない。

一点儿都不活动还行？ 少しも運動しないでそれでいいのか？

### 1.1.5 教科書(E)：『シンプルに中国語』

<単独項目：“一点儿”> (p.14)

(一)点儿 量 少し

<単独項目：“有点儿”> (p.49)

有点儿 否定的なニュアンスでちょっと

### 1.1.6 導入手順・方法などの形式

上述を含む現行の大半の教科書は、“有点儿”を先に新出単語で扱い、“一点儿”を後から別の課で導入している。これは“一点儿”の方は、比較文と共に教えることが

多いため、様々な構造や文意を理解できるようになった段階まで進んでから教える必要があることに関係するとみられる。教科書(A)から(C)のように一部の教科書では日本語でいずれも「少し・ちょっと」と訳すことができることを示し、その後で対比のための解説項目にページが割かれている。(A)については、同時に単語の項目でも対照的に意味の使い分けを示している)また、(D)のように“有点儿”、“一点儿”を個別に解説し、否定の形式まで解説を加えている教科書もある。一方で、(E)のように新出語句としてのみ扱い、それ以上は触れない教科書も見られる。

通常の講義では“有点儿”は形容詞の前、“一点儿”は形容詞の後ろと使い分け、こうした用例を中心に授業を行えば、導入時に大きな混乱は生じ難い。更に、複数の教科書において、“一点儿”は比較文の項目に「比較を通じて判明した差を具体的な数字で言わないで程度の差として言う」<sup>7)</sup>ものとして導入されていることも、初期段階での不要な混乱を回避し得る方策の一つといえよう。

ただ、意外なことに初級の段階で“有点儿”、“一点儿”共に一切触れない教科書も少なくない。

### 1.1.7 初級教科書で導入されている内容

上述の例以外の初級教科書も含めて、初級段階で導入されている主たる共通の内容を次にまとめる。

#### ①<“有点儿”>

位置：形容詞などの前。

品詞：全体で副詞。

ニュアンス：好ましくないこと、不本意な状態が「少し・ちょっと」、否定的。

#### ②<“一点儿”>

位置：形容詞の後。(動詞の後の用例について触れる教科書は少ない)

“V点儿N”「少の～」と名詞を修飾することもある。(B)のみ)

品詞：数詞+不定量詞。

ニュアンス：客観的、比較。

表現：人間が意志的にコントロールできる状態を表す形容詞の場合、命令表現となる。

## 1.2 初中級の学習者を対象とした基礎文法書

次に、初級から中上級まで幅広く多用されている基礎文法書を中心に例を挙げる。

### 1.2.1 文法書(F)：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』

<対照解説>副詞“有点儿”の項目において両者を対照し説明している。(p.146)

“有点儿”は「ある基準や期待値と少しずれがある」と感ずることを表す「ちょっと」の意味の副詞です。これとよく似た語に、わずかな量を表す“一点儿”があります。“有点儿”は形容詞の前、“一点儿”は後ろ、と使い分けます。



一方、“有点儿”は「“有点儿”+形容詞・動詞」の語順をとります。この場合の形容詞・動詞には次のような当事者にとって「好ましくない・望ましくない」意味のものが多く用いられます。(以下、一部フレーズを含む)。<sup>8)</sup>

“饿、贵、渴、难、发烧、后悔、紧张、生气、头疼、着急、恶心、不高兴、不舒服”

“我肚子有点儿疼。”

“你累了吧？-有点儿。”

比較

“今天比昨天冷一点儿。” 【客観的な比較】

“我觉得有点儿冷。” 【主観的な感覚】

注意

次の例は“有(一)点儿+(名詞)”の組み合わせです(“点儿”は不定量詞⇒p.32)。ここで見た副詞の“有点儿”と間違えないよう注意してください。

“今天有点儿风。” [今日はちょっと風がある]

“这个计划有(一)点儿问题。” [この計画にはちょっと問題がある]

“一点儿+都/也”+否定形述語(p.174)

「少しも～ない；まったく～ない」という意味を表す否定の強調表現です。

他说的方言，我一点儿也不懂。

那件事我一点儿都不知道。

#### 1.2.4 文法書(1)：『中国語の基礎 発音と文法』

<他項目例>他の項目において用例の中に使用例のみが挙がる。(p.117)

“她要买一张大一点儿的床。”

“饺子有点儿咸,你尝尝。”

#### 1.2.5 文法書(J)：『中国語基本文法のツボ』

<対照解説>“一点儿”と“有点儿”。以下、ページ数が多いことから、要点と誤用例の挙げてある例文を優先し一部を抜粋する。(pp.127-132)

“一点儿”は数量詞であり、名詞の前または形容詞・動詞の後に用いる。“有一點儿”は副詞であり、形容詞または少数の動詞の前に用いる。話ことばではよく“一”が省略され、“点儿”、“有点儿”となる。

<“一点儿”>

##### ① “一点儿”+名詞

“一点儿”はふつう数えられない名詞の前に置く。

“一点儿水”

例1. 在面粉里放一点儿牛奶。(小麦粉の中に牛乳を少し入れます。)

×在面粉里放牛奶一点儿。

例2. 我会一点儿汉语。(私は中国語が少しできます。)

×我会汉语一点儿。

②形容詞 + “(一)点儿”

“好(一)点儿”

例 1. 我不头疼了,舒服(一)点儿了。(私は頭が痛くなくなり、気分が良くなりました。)

×我不头疼了,一点儿舒服了。

例 2. 我不吃蛋糕,我要瘦(一)点儿。(私はケーキを食べません。少し痩せないといけないので。)

×我不吃蛋糕,我要一点儿瘦。

③形容詞 + “了” + “(一)点儿”

“胖了(一)点儿”

例 1. 今天比昨天冷了(一)点儿。(今日は昨日より少し寒くなった。)

×今天比昨天一点儿冷了。

④ “一点儿一点儿地” + 動詞 / 形容詞

この形は動詞又は形容詞の前に用いて、次第に進行する意味を表す。

“一点儿一点儿地走”

⑤ “一点儿” + “也 / 都” + “不 / 没” + 動詞 / 形容詞

この形は完全否定を表す。

例 1. 这事他一点儿也 / 都不知道。(このことは彼は少しも知らない。)

×这事他不知道一点儿。

例 2. 他说的一点儿也 / 都不错。(彼が言ったことは少しも間違っていない。)

×他说的不错一点儿。

<“有点儿”>

① “有(一)点儿” + 形容詞

一部の形容詞の前に置き、あまり望ましくない状態であるという意味を表す。話言葉では“一”が省略されることが多い。

“有(一)点儿长”

例 5. 这个菜有(一)点儿不好吃。(この料理はあまりおいしくない。)

×这个菜有(一)点儿好吃。※満足できる状態のとき“有(一)点儿”は不可。

例 6. 他的病好(一)点儿了。(彼の病気は少しよくなった。)

×他的病有(一)点儿好。※望ましい状態にあるとき“有(一)点儿”は不可。

② “有(一)点儿” + 動詞 / 動詞フレーズ

動詞または動詞フレーズの前に置き、動詞によって表される動作・行為が満足できるものではないことを表す。話し言葉では“一”が省略されることが多い。



他有(一)点儿感冒。(彼は少し風邪気味である。)

×他一点儿感冒。

### 1.2.6 文法書(K)：『中国語解体新書』

<対照解説> “一点儿”と“有点儿”(pp.177-178)

「ちょっと；少し」という意味の少量を表す表現に“一点儿”と“有点儿”がありますが、両者の用法には違いが見られます。“一点儿”は形容詞の後に置かれて、比較の意味を表します。

我比他个子高一点儿。(私は彼より少し背が高い。)

一方、“有点儿”は動詞・形容詞の前に置かれます。この時の動詞・形容詞(フレーズ)には、「当事者にとって好ましくないもの、望ましくないもの」

(例) 贵、难、饿、后悔、紧张、不高兴…が多く用いられます。

昨天的考试有点儿难。(昨日の試験はちょっと難しかった。)

我有点儿不舒服，可以先回去吗？(ちょっと具合が悪いので、先に帰ってもいいですか？)

本文での表現(“有点儿轻，再重一点儿。”ほか)も含めて、“一点儿”と“有点儿”両者の区別に注意してください。

这条裤子有点儿短，有没有长一点儿的？(このズボンはちょっと短いです。もう少し長いのはありますか？)

### 1.2.7 文法書(L)：『中国語わかる文法』

<対照解説> “一点儿”と“有点儿”を併記して解説する。(pp.208-209)<sup>9)</sup>

<“一点儿”>

数量詞連語 “一点儿”と“一些”，“一会儿”と“一下”

例 ①-②：买(一)点儿蔬菜。(野菜を少し買う)

不定量を表す数量詞連語(「数詞+量詞」の組み立て)に“一点儿、一些、一会儿、一下”がある。“一点儿、一些”の“点儿、些”は不定量詞である。“一点儿”は「少し」と、わずかな数量を表す。ふつう、数詞“一”と結ぶが、“半点儿”という強調表現もある。数詞は“一”としか結ばない。

例 ③-② 这么(一)点儿菜。(これっぽちの料理)

前に“这么”あるいは“那么”を加えると、“这么些”は「こんなにたくさん」、「这么点儿」は「これっぽち」とはっきり意味が分かれる。ただし、次の

例 ② 有(一)些人。(人が少しいる)のような、名詞が一つ一つ数えられるものの場合、“一点儿”は使わないので、×“一点儿人”や×“一点儿书”は成立しない。

例 ④-② (这个比那个)大一点儿。(〔これはあれより〕少し大きい)

形容詞の後ろに“一些、一点儿”を置き、比較の結果としての二者の差について少しという量を表す。

(語気を和らげる効果については割愛する)



“一点儿、一些”はどちらも連体修飾語として名詞の前に置くが、“一点儿”は「わずか」の意味であるのに対し、“一些”は少量とは限らず、“一点儿”に比べ量が多めに感じられる。

名詞が一つ一つ数えられるものの場合、“一点儿”を使わないので×、一些”。

#### <“有点儿”>

程度副詞“有点儿”は「ちょっと；どうも少し」という意味で、普通好ましくないことや、望ましくないことに用いる。形容詞や動詞(句)の前において話し手の気持ちを表す。形容詞の前に置く“一点儿”は意味は似ているが、比較を表す。

### 1.2.8 教科書と文法書の相違点

文法書は解説が中心となるため、単独項目や対照項目による単語の意味のみの提示ということはない。基本的には(G)、(I)を除く(F)から(L)まで“有点儿”と“一点儿”を対照するための解説がある。(G)は“一点儿”のみ単独の解説があり、“有点儿”のための項目立ては見当たらない。(I)には“有点儿”、“一点儿”の項目自体がなく、別項目内に用例のみが挙がる。

また、文法書では「“有点儿”+形容詞・動詞」や「“一点儿”+名詞」など文構造の違い、組み合わせられる品詞の種類等が解説と共に増えている。更に、話し言葉での“一”の省略についても触れるなどの教科書との違いがみられる。

### 1.3. 辞書

辞書については、教科書や文法書のような導入の手順や解説方法よりも、学習者が“一点儿”と“有点儿”に対し、辞書類からどのような知識を取り入れ得るのかという観点から解説の内容を検証する。以下では、主として中国語学習に使用される辞書類の“一点儿”、“有点儿”に関する解説内容を集約するため、項目別に解説内容を挙げる。

#### 1.3.1 “一点儿”

##### 1.3.1.1 辞書(M)：『現代漢語詞典』(第7版)(p.1533)

【一点儿】数量词。1，表示不定的较少的数量：我信纸用完了，你先给我一点儿吧。

2，表示很小或很少：我以为有多大呢，原来只有这么一点儿／只有那么一点儿，够用吗？／几年过去了，他的毛病一点儿都没改。

##### 1.3.1.2 辞書(N)：『中日辞典』小学館(第3版)(p.1841)

【一点儿】

〔数量〕1 (不定の数量(わずかな量)を表す) 少し。

【補足】目的語になる場合、話し言葉ではしばしば“一”を省略する。

这是我的点儿心意/これは私のほんの気持ちです。

再喝一点儿吧/もっと飲んでください。

这件事我知道一点儿/その事なら少しは知っている。

这种颜色的,再卖给我一点儿吧/この色のをもう少しください。

2ほんの少し。…ぽっち。

壶里水只剩下这么一点儿了/やかんにはちよっぴりしか湯が残っていない。

这么一点儿菜,我一个人也不够。これっぽっちの料理では、私一人でも足りない。

【語法】“这么”“那么”と連用して、わずかな数量を表す。この場合、“一”を省くことができる。“(一)些”ならば、逆に量が多いことを表すことになる。

这么些菜我一个人吃不了/こんなにたくさんの料理は私一人では食べきれない。

3《程度が軽いことを表す》少し…。ちよっと…。

【補足】補語として形容詞の後に置かれ、比較のニュアンスが含まれる。“一些”よりもより口語的。“一”は省略されることが多い。

这个菜辣一点儿/この料理は少し辛い。

比以前瘦了一点儿/以前より少しやせた。

4少しも(…でない)。

【補足】多く“也”や“都”で受けて、その後に否定形を置く。“一”は省略できない。

这件事我一点儿都不了解/その事については私は少しも知らない。

你说的一点儿不错,我完全同意/まったくおっしゃるとおりです、私は大賛成です。

【発音】“一点儿”は文面では“一点”とのみ書くことも多い。話し言葉ではほとんどr化させyidiǎnrと発音する。

【注意】

① “一点儿”は、日本語の「ちよっと」のように漠然とした広い用法をもたないので、むやみに返答に用いることは避けなければならない。また、“一点儿”を使って答える場合でも、“有点儿”のように単独で質問に答えることはできないので、必ず形容詞や動詞に後置して用いなければならない。

多不多?——多一点儿〔×一点儿〕/多いですか——少し。

② “(一)点儿”は時には語気をやわらげ、表現を婉曲にするために使われる。

你要买点儿什么?/何をお求めですか?

来点儿啤酒好吗?/ビールをいかがですか。

【比較】一点儿：有点儿

一点儿 形容詞や動詞の後ろに置き、「少し」の意を表すが、客観的評価を下すときに用いられ、不満など話し手の感情は含意しない。

便宜一点儿吧/ちよっと安くして。

这个比那个大一点儿/これはあれよりちよっと大きい。

有点儿 不本意なことや望ましくないことを述べる場合に用いる。後に続く形容詞や動詞は消極的・否定的な意味を持つものであることが多い。

我有点(儿)不舒服/私は少し気分が悪い。

他有点(儿)后悔/彼は少々後悔している。

### 1.3.1.3 辞書(O)：『白水社中国語辞典』(白水社)(pp.1742-1743)

【一点儿】 1 数+量 (一般に個数で数えられないものについて) ちよっと、少し

ばかり。⇒点<sup>1</sup>diǎn

- ①(動詞の後で目的語に用いる；“一”は省略することが出来る。)

你有钱,借给我一点儿。  
这事我知道一点儿。  
你多吃一点儿吧。  
这些饭不够你吃再给你添一点儿。

- ②(名詞の前で連体修飾語に用いる；動詞の後ろに用いる場合は“一”は省略することが出来る。)

喝了一点儿酒。  
我有一点儿钱,可以借给你。  
桌上没有一点儿灰尘。  
这是我的一点儿心意。

- ③(形容詞の後に用い、程度・数量のわずかな増減・減少を表す；“一”は省略することが出来る。)

你的表快一点儿。  
我比他高一点儿。  
早一点儿上街。  
大一点儿声说。

- ④(“这么”“那么”の後に用い、「形状が小さい」「数量が少ない」ことを強調する；“一”は省略することが出来る。)

壶里水只剩下这么一点儿了。  
西瓜还没有长好,只有这么一点儿大。  
那么一点儿粗的绳子禁不住。

- 2 副 (“一点儿[也]不(没[有])” “一点儿[都]不(没[有])” または、[“一点儿” + 名詞 + “都不(也不)”] [“一点儿” + 名詞 + “都没[有](也没[有])”] の形で用い) 少しも、ちっとも、少しの…も。

我一点儿也不累。  
互相间一点儿都不了解。  
一点儿用处也没有。  
一点儿钱都不要。

#### 1.3.1.4 辞書(P)：『東方中国語辞典』(東方書店)(p.1513)

【一点儿】 [量] 少し、ちょっと

还有一点儿活儿,很快就干完了。  
这是我们的一点儿心意。  
桌上没有一点儿灰尘。  
我以为那公园有多大呢,原来只这么一点儿。  
这件衣服做肥了一点儿。  
比刚才好一点儿了。

那钱一点儿没动。  
我一点儿也不累。

1.3.1.5 辞書(Q)：『講談社中日辞典』（第3版）(pp.1857-1858)

【一点儿】 [名] 少し

我想喝一点儿水。  
有了一点儿进步。  
这么一点儿钱,恐怕不够用吧。  
我的表快了一点儿。  
你小心一点儿。  
一点儿也不好。  
他的话一点儿都不懂。

⇒ 類義語 “有点儿” ⇒ 文法 「少しの諸相」<sup>10)</sup>

『講談社中日辞典』（第3版）では別途 文法 と 類義語（1.3.2.5 後述）の項目がある。

文法 では「少しの諸相」として、「少し」の意味を持つ 1 程度が「少し」であることを表す 1.“有点儿” 2.“稍微” 3.“比较” 4.“一点儿” 2 モノが「少し」であることを表す “一点儿” 3 動作が「少し」であることを表す 1.“一下” 2.動詞を重ね型にすると、「ちょっと…してみる」という動作が短い時間試みに行われることを表す、などの解説が挙げられている。

そのうち、“一点儿”に係る内容は次の通り。

1 程度が「少し」であることを表す

4.“一点儿”：形容詞の後に置き、他との客観的な比較を表す。

这把椅子矮一点儿。

“一点儿”は“比”を用いた比較文にも用いられ、「形容詞+“一点儿”!」の形で命令を表すこともできる。

今天比昨天冷一点儿。

高一点儿!

2 モノが「少し」であることを表す

“一点儿”：名詞を修飾し、ものの分量を限定する。

吃了一点儿饭。

洗了一点儿衣服。

买了一点儿东西。

上の例では“一点儿”は後に続く名詞の“飯”などを修飾し、その分量が少ないことを表す。また、抽象名詞に用いることもできる。

这是我的一点儿心意。

「少し～」を表す中国語に関する相対的考察 —初級段階での教育的視座から—

文脈などの示唆がある場合、“一点儿”の後にある名詞を省略できる。

咖啡要放糖吗？请放一点儿(糖)。

なお、次の例は副詞“有点儿”ではなく、動詞“有”+“一点儿”の“一”が省略されたものである。

我有点儿时间。

### 1.3.1.6 辞書(R)：『中日大辞典』大修館(p.2197)

〔一点(儿)〕①少し：不定量を表す。文頭にあるとき以外は〔一〕を省略しうる。すなわち〔一点儿东西〕〔一点儿也没买〕また、〔买了点儿东西〕〔好点儿了〕のようになる。

〔好一点儿〕少しよい。

〔便宜一点儿]的〕少し安いもの。

〔念快一点儿〕少し速く読む。

〔有一点儿事〕少し用事がある。

→〔有点儿〕

②ほんの少し。ごく少ない：〔这么〕〔那么〕と連用してわずかな数量を表す。〔一〕を省略できる。

〔我以为有多少呢，原来只有这么一点儿〕どんなに多いかと思ったらこれっぽちなのか。

③少し(も)：〔都〕、〔也〕と呼応して否定に用いる。〔一〕は省略されない。

〔一点儿都没有〕少しもない。

〔一点儿空儿没有〕少しの暇もない。

④〔語〕漢字筆画の点“丶”。

〔点上一点儿〕“丶”をつける。

### 1.3.1.7 辞書(S)：『現代漢語八百詞』増訂版<sup>11)</sup>(pp.602-603)

一点儿〔数量〕1. 表示数量少而不确定。

a) 可作定语、宾语、主语。

买了一点儿东西/就剩一点儿菜了/一点儿花生米/拿了一点儿/一点儿也没动/一点儿也不给他/一点儿钢材也没有了/一点儿不给他行吗？/只有一点儿了，大家分掉算了/我的那部分稿子抄完了，你再分给我一点儿/他花钱像流水似的，一千块钱只用了一个月，现在一点儿也没有了/周围一点儿声音也没有/马上就要开工了，可是工地上一点儿钢材也没有

b) 用在形容词后作补语，有表程度轻的意思。

毛衣织得长了一点儿/生活现在好了一点儿也不能乱花钱/要教育孩子把学习基础打得扎实一点儿

c) 重叠后作状语。

他现在只能架着双拐一点儿一点儿地向前挪动/无情的沙漠一点儿一点儿地蚕食着我们的土地

d) 和‘(就)这么’、‘(就)那么’连用，有强调少的作用。

就这么一点儿东西，够谁吃的？/只有这么一点儿啦，够干什么用的？/就那么一点儿货，能卖几个钱啊！/钱就那么一点儿点儿啦，还能花到月底吗？/就这么一点儿东西了，你都拿走吧

2. 和‘这么’或‘那么’连用，也可表示形体或面积小。

就这么一点儿地，能盖起大楼吗？/我以为有多大呢，原来就这么一点儿/蚂蚁就那么一点儿，竟能拉动比它大好多倍的东西

3. 用在‘不、没’的前面，表示完全否定。意思相当于‘的确、确实’。有时‘一点儿’和‘不、没’之间可插入‘也、都’等。

刚才老李讲的一点儿不错，应该引起大家的注意/这种保鲜法很好，储存的蔬菜一点儿没烂/他那天不在，这里发生的情况，他一点儿也不知道/我敢保证，那里的东西他一点儿都没动

**比较** 一点儿：丝毫 见‘丝毫’。

### 1.3.2 “有点儿”

#### 1.3.2.1 辞書(M)：『現代漢語詞典』(第7版)(p.1589)

**【有点儿】** **副** 表示程度不高;稍微(多用于不如意的事情)**注意** “有点儿”有是是动词和量词的组合，如“锅里还有点儿剩饭”、“看来有点儿希望”。

#### 1.3.2.2 辞書(N)：『中日辞典』小学館(第3版)(p.1912)

**【有点儿】** **副詞** 少し。少々；どうも。

**【補足】** 望ましくないことについていうことが多い。後に続く動詞や形容詞は消極的・否定的な意味のものが多い。また「不+形容詞・動詞」の形で消極的・否定的な意味を表す語句が後に続くこともある。

这个问题提得有点儿太突然了/この質問はいささか唐突すぎる。

这个人有点儿面熟/この人はどこかで会ったことがあるようだ。

他有点儿后悔/彼は少々後悔している。

他今天有点儿不高兴/彼はきょうちょっとご機嫌斜めだ。

身体有点儿不舒服/体の調子はあまりよくない。

这个人真有点儿不懂事/この人は実にわからず屋だ。

我有点儿想去又有点儿不想去/別に行きたくないわけではないが、それほど行きたくもない。

**【注意】**

**①** “有点(儿)”は単独で質問に答えることができるが、“一点儿”はできない。

你不觉得疼吗？——有点儿/痛くないかい——少しばかり。

他是不是后悔了？——有点儿/彼は後悔したんじゃないですか——少しね。

**②** “有点(儿)”は「動詞+量詞」で「少し…がある」(“有一点(儿)”の“一”が省略された形)の意味で用いられることもある。

外头有点儿风/外は少し風がある。

看来有点儿希望/どうやらものになりそうだ。

**【関連】** **【一点儿】**

「少し～」を表す中国語に関する相対的考察 — 初級段階での教育的視座から —

【発音】南方の人の発音や硬い文脈では“有点yǒudiǎn”とr化しないで発音することもある。

### 1.3.2.3 辞書(O)：『白水社中国語辞典』（白水社）(p.1835)

【有点】**副**（～儿）（〔“有点儿”+消極的意味を示す動詞・形容詞〕〔“有点儿”+積極的意味を示す動詞・形容詞〕の間に用い）ちょっと、少し≡“有一点、有些”。

①（好ましくない状態・性質を直接的に述べることを避けて控えめに表現したり、時に程度が甚だしいのにわざとそれをアイロニカルに行って相手に理解させようとする場合。）

这个人有点儿糊涂。

他今天有点儿紧张。

我身上有点儿不舒服。

他有点儿顽固。

对一个天真无知的孩子实行打击报复，这种做法有点儿未免太过分了吧！

②（心理活動や発展・変化の程度が高くないことを示す場合。）

这个人我有点儿面熟。

我有点儿想家。

这里的风景有点儿像北京郊区。

③（“稍微”と共に用いて「少し」の意味をより強調する場合。）

爸爸稍微有点儿生气。

学习稍微有少点儿吃力。

◆(1) “有点”は“我心情有点舒畅了。”（私は気持ちが少しのびやかになった。）の好ましい変化の性質には用いることが出来るが、好ましい状態や性質の表現には用いることが出来ないので、“这本书有点好看了。”（この小説はちょっとおもしろい）のような表現は不自然である。

(2) “有点”は後に形容詞や動詞を伴わず単独で用いることもあるが、“有些”はこのような用い方はできない。“你是不是不满意？” — “嗯，有点儿”（「君は不満なのでは？」 — 「ええ、少し。」）

【有点】『動+量』（～儿）（〔主語（場所）+“有点儿”+目的語（名詞）〕〔主語+“有点儿”〕の形で用い）…には少し…がある、（…は）幾らかある。≡“有一点”。

瓶子里还有点儿酒。你应当有点儿勇气。剩饭还有点儿。工作有了点儿起色。

### 1.3.2.4 辞書(P)：『東方中国語辞典』（東方書店）(p.1568)

【有点儿】**1** [動] 少しある。

壶里还有点儿水。

办这样的事我有点儿经验。

**2** いくぶん、少し；多く好ましくない場合に用いる。

有点儿不高兴。



我学习稍微有点儿吃力。  
他是不是后悔了?—有点儿。  
这有点儿那个。  
这个人我有点儿面熟。  
她长得有点儿像她妈妈。

### 1.3.2.5 辞書(Q)：『講談社中日辞典』(第3版)(p.1924)

【有点儿】**副** 少し、ちょっと、いくぶん(多く望ましくないことに用いる)[有一點儿]ともいう。

有点儿贵。  
孩子有点儿发烧。  
有点儿羡慕，又有点儿嫉妒。  
你脸色有点儿不好。  
今天有点儿冷。  
“你累了吧？”“有点儿。”

⇒ **文法** 「少しの諸相」<sup>12)</sup>

「少しの諸相」で“有点儿”に係るのは次の内容である。

**1** 程度が「少し」であることを表す。

1. “有点儿”：形容詞の前に置き、話し手の持つ基準からのズレを表す。多く「好ましくない」ニュアンスを含む。

这张桌子有点儿高。

この場合の「ちょっと」はあくまでも話し手中心の「高さ」に関するコメントであり、“有点儿”は他との相対的な比較を表す文、すなわち比較文には用いられない。

×这张桌子比那张有点儿高。

また、**類義語** (p.1924) の項目には、次のような対照解説がある。

〔有点儿〕副詞で、形容詞などの前に置く。程度が低い、あるいは予想していた基準から少しずれがあることを表す。多く話し手にとって不如意なことに用いる。

这件衣服我穿有点儿小。

他有点儿不听话。

我嗓子有点儿干。

〔有点儿〕+形容詞の後に語気助詞の〔了〕がつくと、主に状態変化を表す。また、予想とのずれを表すこともある。

馒头有点儿馊了，别吃了。

如今枫叶已经有点儿红了。

今天来得有点儿早了。

〔一点儿〕名詞で、形容詞などの後に置き、補語になる。客観的に何かと比べて、

「少し～」を表す中国語に関する相対的考察 —初級段階での教育的視座から—

その性質が「少し」であることを表す。〔一〕はよく省略される。

这个比那个好一点儿。

快点儿走。

〔一点儿〕が前に来る場合は、〔也不…〕が後ろに続く場合に限られる。

我们一点儿也不感兴趣。

名詞の前にある〔有点儿〕は本動詞〔有〕+数量詞〔一〕+量詞〔点儿〕の〔一〕が省略されたもので〔有一本书〕と構造上は同じである。〔碗里有儿水〕(表省略)

### 1.3.2.6 辞書(R)：『中日大辞典』大修館(p.2279)

〔有点(儿)〕

①少しある。

〔你想要的话，这儿还有点儿富余的〕もしきみが要るなら，ここにもう少し余分がある。

〔碗里有儿水〕お碗の中に水が少しある。

②少し。いささか：程度の甚しくないことを表す。意のままにならない気分を示すことが多い。

(a)後に消極的・否定的な意味の語を伴う。

〔他稍微有点儿后悔〕彼はいささか後悔している。

〔有点儿累了〕ちょっと疲れた。

〔头有点儿疼〕頭が少し痛い。

〔这个问题提得有点儿太突然〕この問題の提案はあまりにも突然だった。

〔我有点儿害怕〕わたしは少し怖い。

〔你不觉得疼吗？有点儿〕きみ，痛くないかい。ちょっと。

(b)〔有点儿不…〕の形で，後に積極的・肯定的な意味の語を伴う。

〔心里有点儿不踏实〕いささか心配している。

〔这个人真有点儿不懂事〕こいつはほんとにわからず屋だ。

〔稍微有点儿不满意〕いささか不満だ。

→〔有些①②〕〔一 yī 点儿①〕

### 1.3.2.7 辞書(S)：『現代漢語八百詞』増訂版(pp.631-632)

有点儿〔副〕表示程度不高；稍微。多用于不如意的事情。

a) 有点儿+形/动。形容词、动词多半是消极意义的或贬义的。

形容词、动词之前可以加‘太’。

这个人有点儿糊涂/他的情绪有点儿紧张/这个问题提得有点儿太突然/这个人有点儿面熟/他有点儿后悔/我有点儿想去又有点儿不想去/小王有点儿爱埋怨人/你这样做，有点儿太说不过去/有点儿装腔作势/有点儿骄傲自大/有点儿小题大作

b) 有点儿+不+形/动。形容词、动词多半是积极意义的或褒义的。

心里有点儿不安/他今天有点儿不高兴/天气有点儿不大好/这个人真有点儿不懂事/这种做法可有点儿不顾大局/你这句话有点儿太不讲道理

c) ‘有点儿’有时与‘稍微’连用。

我学习稍微有点儿吃力/稍微有点儿不满意/老王稍微有点儿生气/我稍微有点儿后悔

d) ‘有点儿’可以单独回答问题。

你不觉得疼吗?—有点儿/他是不是后悔?—有点儿

注意 ‘有点儿’有时是‘动+量’。

碗里有点儿水/这幅漫画倒有点儿意思/这要有点儿勇气/工作有了点儿起色

## 2 基本教材における共通点や相違点

全体的に挙げられた例文の数が多く、大量の用例に触れさせることで理解を促す傾向がある。以下では、“一点儿”と“有点儿”に関する教科書や文法書、辞書類の解説における共通点や相違点についてまとめる。

### 2.1 “一点儿”に関する解説

#### 2.1.1 品詞

“一点儿”の品詞は単に数量詞とするものが最も多い。そのほか数詞“一”+不定量詞“点儿”の数量詞であると説明を加えるものや、一部、数量詞フレーズ、数量詞連語とするものもある。

#### 2.1.2 関わりのある品詞の種類と文中での位置関係

名詞の前または形容詞・動詞の後に用いるが、教科書、文法書で最も多く基本として導入されているのは形容詞との組み合わせで、次いで動詞である。名詞の前に置かれることを指摘しているものは半数以下である。(辞書については広く用法が挙げられている)前後の位置関係に関して、“一点儿”の名詞との組み合わせは、形容詞や動詞の場合とは逆に“有点儿”同様“一点儿”が名詞の前に置かれることから、初級学習者に対して混乱を招かぬよう解説に注意を払う必要性があるためと考えられる。(名詞と組み合わせる“一点儿”または“有点儿”については2.2.6で後述する)

#### 2.1.3 否定表現

このほか、“一点儿”+“也/都”+“不/没”+動詞/形容詞のような完全否定の表現や、“一点儿”+名詞+“都没[有](也没[有])”などの名詞を含む否定形式について触れている教材は辞書でも半数以下と少ない。

多くの初級の教科書において、形容詞や動詞の後に“一点儿”がくることを教えており、特に“一点儿”が形容詞・動詞の前に来る完全否定に関しては、位置関係が逆になるため、導入のタイミングを見計らい、初級段階においては“一点儿”を用いた完全否定形式を導入をしないという考えに至っているのではないかと推察される。

### 2.2 “有点儿”に関する解説

「少し～」を表す中国語に関する相対的考察 —初級段階での教育的視座から—

### 2.2.1 品詞

品詞自体は基本的に副詞で統一されているが、一部、程度副詞と称するものもある。

### 2.2.2 “一”の省略

“有一點儿”で一語の副詞とし、話し言葉ではよく“一”が省略され、“点儿”、“有点儿”となる、と注記を加える教材と、初めから“一”の省略された“有点儿”で副詞とする教材の両方がある。

### 2.2.3 “儿”化

教材の大半が“儿”を含めた形で表記し、ごく一部の辞書類で“有点”（～儿）と括弧書きや小文字で表記する。

### 2.2.4 位置関係

「位置：形容詞などの前」、「有一點儿」+形容詞」などの記述で形容詞との組み合わせを基本としており、使用頻度が低い「動詞/動詞フレーズ」が後ろに来ることを指摘する教材は少ない。

### 2.2.5 文意・ニュアンス

単語の意味だけでなく、解説があるほとんどの教材で、形容詞・動詞には、当事者にとって「好ましくない・望ましくない」、「動詞によって表される動作・行為が満足できるものではない、好ましくない」、「否定的」といったネガティブな意味のものが（多く）用いられるとしている。“有点儿”が話し手にとってのマイナスイメージを伴うものという刷り込みは教材の解説によるところが極めて大きい。

### 2.2.6 名詞との組み合わせ

更に“今天有点儿风。”（今日はちょっと風がある）、“有点儿钱”（少しの金）のような“有(一)点儿”+名詞の組み合わせも「少し・ちょっと」と日本語に訳すことが出来ることから、教科書では(A)・(E)、文法書では、(H)・(J)・(L)、辞書では(O)・(Q)が扱っており、総体的には少数とはいえ予想よりは多くの教材でこの「少し～」の表現に係る名詞との組み合わせについて言及している。基本的な解説に大差はないが、表現方法には教材間でばらつきがみられる。例えば、「“V点儿N”「少しの～」と名詞を修飾することもある」、「不定量詞“一点儿”、“一点儿”はふつう数えられない名詞の前に置く」、「文脈などの示唆がある場合は“一点儿”の後にある名詞を省略できる」などである。

このほか、“有点儿”が名詞をとる例として『動+量』(～儿)（〔主語(場所)+“有点儿”+目的語(名詞)〕〔主語+“有点儿”〕の形で用い)…には少し…がある、(…は)幾らかある」などの形式の提示や、「“一点儿”は数量詞であり、名詞の前または形容詞の・動詞の後に用いる。“有一點儿”は副詞であり、形容詞または少数の動詞の前に用いる。話ことばではよく“一”が省略され、“点儿”、“有点儿”となる。」といった解説もあり、全体を把握できていない初級の段階で教科書、文法書、辞書など様々な

複数の教材を通して学ぶ際には、種々の表現に幾分混乱の可能性が懸念される。

以上、教養レベル或いは専門科目として、初級段階で触れる可能性の高い教科書、文法書、辞書について、“一点儿”及び“有点儿”に係る解説、用例等の内容を挙げまとめた。解説する用法や形式の種類に関しては相当の幅があるものの、“一点儿”と“有点儿”に関する初級教育の重点は、形容詞(または動詞)との組み合わせによる用法に置かれている。用法に対する基礎的な考え方についても相違はなく、いずれも日本語で「少し～・ちょっと」と翻訳されている。以下ではこの中心的な用法に問題をフォーカスして考察を進める。

### 3 「ちょっと・少し～」の意味

そもそも“一点儿”と“有点儿”が同じ日本語に翻訳されるため、その使い分けが分かりにくくなるわけだが、この日本語訳に用いられる「少し・ちょっと」とは、何が「スコシ・チョット」なのだろうか。『広辞苑』で「少し」を調べてみると、「わずか、いささか、ちょっと」となっており、次にここに挙げられたそれぞれの語を引いて見ると、またこのいずれかの語が記されていて、同義語の中での堂々巡りに陥る。つまるところ「何かの量が少ない」ということなのだろうと理解するが、そうだとすると何が少量なのか。量が多いとか少ないとは何を以て何に対して言うものなのだろうか。(以下、「少し」と略称する。)

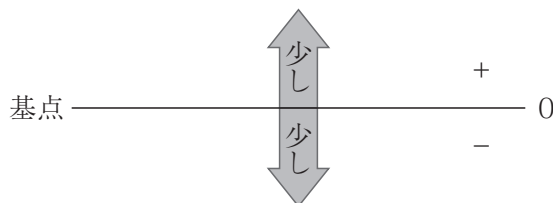
この量の多少という観点から、“一点儿”と“有点儿”の問題を考える。

#### 3.1 「少し」という語彙からみる共通点

例えば、量が「多い」とか「少ない」というのは、目で見える形にするならば、秤(はかり)のメモリがプラス方向に傾いているかマイナス方向に傾いていることを意味している。秤が0を示す基点(天秤ならプラスマイナスゼロの水平を保っている状態)から、多い方に傾けばプラス、少ない方に傾けばマイナスということになる。つまり、この「少し」に係わる問題を考える際に、初めに念頭に置いておくべきは、秤の0を示す基点の存在である。(図1)

以下、(図1)内での+-は、数量的な多少を意味しており、感覚的、感情的な上下を表すものではない。

(図1)：基点と「少し」のイメージ



つまり、「少し」とは基点からのズレ、ハズレ具合が少量であるということと言っ

ている。秤のようにメモリの0が基点で、ズレをプラスマイナスの数値で測って目視出来れば分かりやすいが、文中に用いられる「少し」+形容詞(または動詞)という表現では、何がこの「基点」(基準になる点)になるのかというと、文脈や事前の情報、常識感覚などによって、話者があらかじめ理解し得た(し得る)情報が前提としての基点(前置き条件)になる。これが基準になり、そこからわずかにズレたり、ブレたりした分量の多少について「少し～」と表現している。この基点(前置き条件)による基準をここでは前提基準と称する。

そしてこの前提基準は、「少し～」を表す“一点儿”と“有点儿”の両方に共通する概念である。

以下に、“一点儿”と“有点儿”の前提基準の相違について考察する。

### 3.2 「少し」という語彙からみる相違点

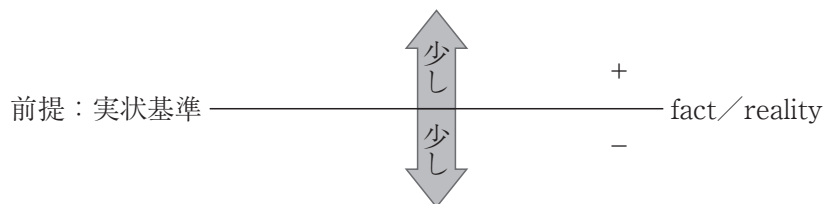
#### 3.2.1 “一点儿”の前提基準

“一点儿”の場合、比較文に多く用いられることから分かるように、比較対照される対象があり、これが基点となる。例えば“A比B～一点儿。”(AはBより少し～だ。)の場合、Bが基点となる。もちろん“我要买大一点的。”(私は少し大きいのを買いたい。)のように対象が示されない場合もあるが、この場合も当然基点はあり、「コンテキストや常識など客観的に認識された情報」が前提条件となりこれが基準となる。(この場合は、既に手中にある、あった物などが基準に相当する。)

要するに“一点儿”の前提基準は、形容詞の場合は、発話以前の実際の状態や状況(fact/reality)で、例えば、“他的病好一点儿了。”(彼の病は少し良くなった。)という場合、発話以前の状態に比べて“好一点” (少し良い)、また動詞の場合は、前提基準とは、発話以前の状態を指しているの、発話の前、つまり動詞による動作行為が行われる以前が前提となり(すなわち0の状態)が基準となる。例えば、“你喝点什么?”(何かちょっと飲みますか。)といった場合、飲む前=飲むという動作はスタートしていない⇒動作行為は0の状態にある、という解釈が成り立つ。

この発話以前の実際の状態や状況とは、発話時に既に実存した状況、または発生した出来事についての情報を指し、(図2)では実状と称する。

(図2): “一点儿”の基準イメージ



#### 3.2.2 “有点儿”の前提基準

##### 3.2.2.1 ネガティブなイメージを帯びる「少し」

文法解説によっては「“一点儿”は比較構文の差を示す部分に置かれ、比較し



た結果としての差分を表すが、“有点儿”は比較の差ではない。』<sup>13)</sup>とする。相原(1996; p.146)でも「“有点儿”は比較じゃなくて『基準や期待からちょっとズレがある』ことをいう。つまりどうもいやだなという感覚だ。今日はなんだか寒くていやだなというなら“今天有点儿冷。”こちらを使う。』<sup>14)</sup>としている。

しかし、拙稿では“有点儿”についても、やはり比較対象との差による「少し」であり、“一点儿”同様に基点が必要となると考える。ならば、上記の例文でいう「今日は寒い」では何が基点となっているのか。相原(1996)では、何の基準かは明らかにされていないものの、基準や期待からズレていることから、当然、嫌だなというネガティブなニュアンスが生ずるという説明に矛盾はないし、初中級レベルの教科書における例文を実際に確認した限りでは、これ以上の説明の必要性はないように思われる。

ただし、実際の“有点儿”の用法には、こうしたネガティブな感情を逸脱した表現も少なからず存在している。おそらくこの点を踏まえて、上述の一部の教科書、文法書類でも「多くは～」という条件を付けているとみられるものの、実際に挙げられている例文は、基本的にネガティブな感情を伴うものが中心であり、学習者には“有点儿”は、否定的なネガティブな場合に使われる「少し」というイメージが極めて強く定着している。

### 3.2.2.2 ネガティブではないイメージを帯びる「少し」

例えば、次のような例である。

“这么难的考试你一次就过了啊，有点儿厉害呀！”

(「こんな難しい試験に君は一発で通るとは、ちょっと凄いよ！」)

この“有点儿厉害呀！”には、「意外」というニュアンスはあるが、嫌だなというネガティブなイメージはない。

また、上述の辞書(S)：『現代漢語八百詞』増訂版(pp.631-632)の“有点儿”a)を始め複数の辞書にみられる“这个人有点儿面熟。”という用例も、実はネガティブな例ではない。((おや?)この人はちょっと見覚えがある。)という、思いもしない、意外な印象を表している。

このほかにも、中国の有名な天然水のCMで、イメージキャラクターの俳優がこの水を飲み最後の決め台詞として、“有点儿甜。”(「ちょっと甘い。’)と呟く映像があったが、「水は甘い等とは全く思っていなかったが、実際に甘かったことは意外だ。」(⇒美味しい)ということ伝えてる。

これらに共通するのは、いずれもポジティブな「予想外にも少し～」というニュアンスである。

この“有点儿”の持つイメージについて、ネガティブか、ポジティブか、これらのニュアンスに関する使用例のバランスの問題など、今後、歴史的な検証も含めて更なる研究の必要性があるが、少なくとも現在の実生活の中で、ポジティブな用法は日常的に用いられており、その頻度も低いとは言えないため、例外的表現と捉えることはできない。

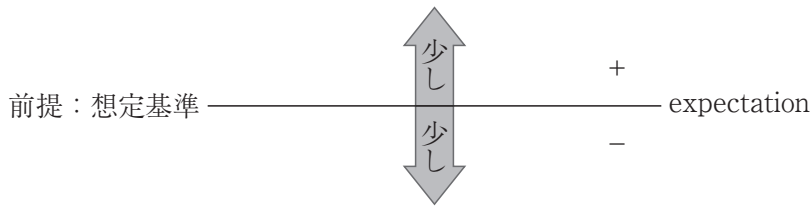


### 3.2.2.3 ポジティブ・ネガティブ両方のニュアンスを満たす「少し」の基準

では、この両方を満たす“有点儿”の基点となるのは何か。それは、話者にとっての「想定基準」であると考えられる。想定には内と外があり、「想定範囲内」は「あらかじめ考えていた物事や状況」、「想定範囲外」は「あらかじめこうであるはず、こうであるべきと考えていた範囲を超えていること」を意味するが、「少し～」と修飾語を置く以上、ネガティブであろうとポジティブであろうと、「想定外」なことであり、話者の想定値から外れた少しのズレが“有点儿”なのである。

ここでいう想定(expectation)とは、「推定」、「仮定」、「仮想」、「仮説」に近い意味であり、「理想」や「期待」のような実現に望みをかけたり、当てに心待ちにしたりするようなポジティブな+方向の意味合いの含意を必ずしも約束するものではない。

(図3)：“有点儿”の基準イメージ<sup>15)</sup>



## 4 客観と主観

最後に、主客の観点からこの問題を検証する。

“一点儿”は、実状が前提の基準になっており、主として客観性が求められる。例えば、“我身体好一点儿了。”(私の体調は幾分良くなった。)という場合、もちろん、感覚的に判断する場合もあり、一見主観的な側面が強いように感じられがちだが、例え個人的な感覚で答えているとしても、熱が下がっているとか、顔色がよいとか、体が楽になったなど、他者がその説明を聞いても納得し得るなんらかの根拠がある。この話者以外の第三者にも共通認識が可能な根拠が存在するという点において客観性を認めることが出来る。この“一点儿”がもつ客観性は、例えば“他比我高一点儿。”(彼は私より背が少し高い。)のような比較文に“一点儿”がよく現れるという性質にも適合している。

これに対し“有点儿”は、話者の想定が比較のための前提の基準になっているので、あくまでも主観的である。先に挙げた「意外にも難関の試験に合格した」、「思ったよりも甘い」というのは、誰もが対象者または対象物に対して同じ試験結果や同じ糖度の基準を想定しているとは言えず、あくまでも個人的な想定という点で、第三者が共通認識として納得するような統一的な根拠はなく、話者の個人的な判断に基づいているという点で、極めて主観的であるといえる。

## 5 まとめ

“一点儿”と“有点儿”に関する初級段階での指導に際し、現行の教材に補足出来

る点は、先の(図1～3)のほか、以下のような内容にまとめられる。

“一点儿”、“有点儿” いずれも日本語では「少し・ちょっと」と訳される。

「少し・ちょっと」とは、具体的な量の少なさを表すことよりも、比較となる基準から外れている、ズレていることを示している。

その際、基準となるのは、全文のコンテキストや従来から話者が持っている知識や常識感覚であり、この前提(前置き条件)の性質によって使い分けが生じる。簡潔に整理すると以下(表1)のような相対性を認めることが出来る。

前提(前置き条件)に関する“一点儿”と“有点儿”の相対性(表1)

「少し～」の前提 (前置き条件)		
項目	“一点儿”	“有点儿”
根拠	客観的根拠による判定	主観的根拠による判断
前提となる基準	実状基準	想定基準
基点	既存的事実 (fact/reality)	仮定的当然 (expectation)
(基点の時制)	已然 <sup>16)</sup>	未然
基準値	既定値	想定値

## 参考文献

- 相原茂, 1996, 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』, 同学社  
 2011, 『いぶこみ広場』, 朝日出版社  
 2012, 『語法ルール66』(改定版), 朝日出版社  
 2017, 『いぶこみ交差点』, 朝日出版社
- 荒川清秀他, 2009, 『シンプルに中国語』, 同学社
- 遠藤光暁, 2003, 『書く中国語』, 朝日出版社
- 古川裕, 1993, 『チャイニーズ・プライマー』, 東方書店  
 2001, 『チャイニーズ・プライマー』 -New Edition-, 東方書店
- 興水優・島田亜美, 2009, 『中国語わかる文法』, 大修館書店
- 丸尾誠, 2010, 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』, アスク出版  
 2017, 「中国語解体新書 語彙、文法、読解、リスニング強化が1冊でできる!」, 駿河台出版社
- 松岡榮志・古川裕監訳, 2004, 『現代中国語総説』, 三省堂
- 三宅登之・李軼倫, 2013, 『中国語の基礎 発音と文法』, NHK出版
- 三宅登之, 2012, 「中級中国語 読みとく文法」白水社
- 守屋宏則, 2019, 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』改定新版, 東方書店
- 朱曉星(ほか原著), 上野恵司監修, 高部千春(日本版), 2012, 『中国語基本文法のツボ』, アスク出版

## 辞書類

- 愛知大学中日大辞典編纂所編, 2010, 『中日大辞典』第3版, 大修館

相原茂編集, 2010, 『講談社中日辞典』第3版, 講談社

相原茂・荒川清秀・大川完三郎編, 2004, 『東方中国語辞典』第1版, 東方書店

北京商務印書館・小学館共同編集, 2016, 『中日辞典』第3版, 小学館

伊地知善継編, 2002, 『白水社中国語辞典』第1版, 白水社

呂叔湘主編, 1999, 『現代漢語八百詞』増訂版, 商務印書館

中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編, 2021, 『現代漢語詞典』第7版, 商務印書館

- 1) 以下、教材に記されたピンイン表記については省略、中国語の例文については“ ”を付した。
- 2) 教科書(A出版採用実績2021)、文法書(B書店売り上げ実績2021)による。
- 3) “有(一)点儿”としたり、“儿”を小文字や括弧書きにする教材もある。以下、引用箇所は原文のまま記す。ただし引用以外は“有点儿”に統一して表記する。
- 4) 以下は要点の抜粋。「です、ます」などの文言については原文のママとし統一していない。また、教科書については、中国語の例文の日本語訳は原文にあるものは転記し、ない場合はそのまま付していない。更に、“一”の省略について説明を付しているものもあるが、紙面の関係上、論旨にかかわりがない場合は割愛したところがある。そのほか、控え目な表現としての「少し・ちょっと」は「少量」からの派生的な用法としてここでは特に区別しない。
- 5) <対照項目>とは“一点儿”・“有点儿”を同時に対照的に単語項目に挙げる場合。  
<対照解説>とは“一点儿”・“有点儿”を同時に対照的に解説する項目がある場合。  
<単独項目>とは“一点儿”・“有点儿”を一方ずつ単語項目に挙げる場合。  
<単独解説>とは“一点儿”・“有点儿”を一方ずつ解説する項目がある場合。
- 6) 参照例文はルール53「比較」の表中にある次の内容。「A>B：“哥哥比我大一点儿。”」
- 7) 例えば(チャイニーズプライマー-New Edition-p.255)
- 8) 以下、中国語のみとし日本語訳省略。
- 9) “一点儿”の該当箇所に限定し抜粋。
- 10) 文法「少しの諸相」(p.1857)関連項目のみ抜粋。例文の日本語訳省略。
- 11) 一般的な辞書の類ではないが、虚詞を中心に学習者にとって分かりにくい語を厳選し、その意味や用法をピンインのアルファベットに従って詳細に解説していることから、ここでは辞書の一種として扱った。
- 12) 文法「少しの諸相」(p.1857)関連項目のみ抜粋。例文の日本語訳省略。
- 13) 東京外国語大学言語モジュール<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/gmod/contents/explanation/061.htm>
- 14) 上述文法書(F)より一部記載。
- 15) (図3)内の+-は、例えば、“今天有点儿冷。”(気温が低くて少し寒い)は-、“有点儿热”(気温が高くて少し暑い)なら+という温度の高低や数値の上下を示しており、ポジティブ、ネガティブのニュアンスとは関係ない。
- 16) まだ動作が行われていないような0基準の場合は、事が起こっていないという事態が既にある=既存の事実、として已然と捉えられる。